
遊戯王GXの世界に転生した物語（意外とそのまんまな題名）

四季

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

遊戯王GXの世界に転生した物語（意外とそのまんまな題名）

【Nコード】

N6304Y

【作者名】

四季

【あらすじ】

「今日、俺は遊戯王の世界に転生した」

何が言いたいのかわからないとは思うが気にするな、俺も思考が追いついていない。

とりあえずわかるのは、これからが楽しみだってことだ……。

プロローグ

「知らない場所だ………」

気が付いたら俺は、真っ白い空間にいた。

・・・おかしい、俺は確かに家で遊戯王のデッキを作っていたはずだ。

ちなみに俺の名前は不知火遊夜。高校2年だ。

少し戸惑いながら周りを見渡していると、なんかものすごいイケメンが突っ込んできて恐ろしい速さ（普通に見えなかった）で土下座した。

「どうも、すみませんでした！！！！！！！！！！」

「……………は？」

いきなりの展開過ぎてまったくわからない。

とりあえずどういふことなのかを青年に尋ねてみた。

「なあ……………どういふことだ？」

「じ、実はな……………俺は神様なんだ！」

まずはそこからブツ飛んでますね。

「実は書類整理をしてたんだが暇でね、寝ていたら……………」

「ね、寝ていたら……………」

「君の書類に涎が付いて汚いと思って捨てたら、君が死んじゃった

」

・・・へ？

「いやだから書類を捨てたら偶々君なので、その紙は君の人生が書いてあって、捨てたら死んだだってこと」

「うそだろぉ!？」

「いえ、本当です（キリッ）」

ええ・・・これからどうしろと・・・。

「特に驚いたり怒ったりしないことに俺は驚いた。君には特例として二度目の人生を歩んでもらうことになったよ」

「そうなんですか？」

「うん。世界は・・・。」

どこになるんだろうか？

二次創作ではアニメの世界が普通だが出来れば元の世界が嬉しい・・・って無理か。

「空いているのは遊戯王の世界だけだね。どの時代に行きたい？カッティング？シンクロ？それともガッチャ？」

「できればガッチャで!」

即答してしまったが悪くはないと思う。
だって、面白そうじゃないか!!

「うん、じゃあ、チートはどうする？」

うーん・・・そんなのは特にいらないし・・・。

「それじゃあ、生前に持っていたカードを持って行きたいな」

「持っていけるのは10000枚が限界だけど？」

「じゃあ、必要なを教えるから持ってきてもらえると嬉しいです」

「じゃあ、この紙に必要なものを書いて」

「了解」

うーん・・・俺が使ってたのはこれとこれと・・・あとこれもだな。

あまりは・・・。。。

（5時間後）

「決めました」

「大分かったね」

「ええ、枚数が枚数ですから」

「じゃあ、準備はいいかい？」

「はい」

これで文句はないはずだ・・・たぶん。

「君の性別は男、年齢は零から・・・まずはここはOK？」

「はい」

「名前は今と同じ、両親は・・・まあ、どうなるかは不明」

「はい」

「あとは・・・まあ、こんなものかな？じゃあ、行くよ」

これから行くのか・・・少しどきどきするな・・・。

・・・思っていたら地面にだんだん体が沈んでいきました。

「うえ!?!」

「じゃ、がんばってね」

こんな始まりだが、ここから俺の新しい人生がスタートしたのである。

第一話／もう転生から10年が経ちました・・・え？早い？（前書き）

え？早い？

気にしたら負けですよ。

本編に入るために、この話が終わった後、また時間が飛びます。
ご了承ください。

では、一話目、どうぞ！

第一話／もう転生から10年が経ちました・・・え？早い？

生まれてからもう10年が過ぎました。

え？早い？

・・・お前ら、赤ちゃんの生活とか見て面白いと思うか？思わない
だろ？

・・・と言う訳である。

お父さんとお母さんは・・・事故で去年亡くなった。

あの時は年甲斐もなく思い切り泣いたな・・・。

今は早乙女さん家にお世話になってます。

家？それは俺の家に住んでるけど。

5歳くらいにテレビを見て、KCが写ってたときはかなり興奮しました。

だって、KCだよ？遊戯王の世界に来たって言う実感がもてるじゃないか。

「・・・ちなみに今は、お世話になってる早乙女さんの家のレイちゃん
の相手をしています」

「・・・遊夜兄、誰に言ってるの？」

「気にしたら負けだよ」

そんな会話をしながら話していたら、郵便が届いた。

ピンポン！

「はい」

「この荷物に判子お願いしまーす」

「はい」

判子を押して受け取ると、神 進と書いていた。

・・・カードか。やっときたな。

中身を見ると、確かに俺が頼んだカード達だった。
・・・やっとなとデュエルができるな・・・。

そう思い、嬉しくなった。

いや、カード持っていないわけじゃないんだよ？ただ、親からもらったカードなんだけど、なんか危険なんだ。わからないけど。

「よし、レイ、デュエルしようか！」

「でも遊夜兄強いもん・・・」

「だ・か・ら、レイも強くするんだよ、今から」
「本当！」

メチャクチャ目をキラキラさせているmy従兄妹。
正直言つて・・・可愛いです。

「じゃあ、さっさと組み上げて戦うか！」

「うん！」

く組み上げ始めて3時間後く

「やっとできた・・・な」

「うん・・・長かったね・・・」

そりゃあ、俺たちの時間で言えばこれは長いだろう……。

「時間もないから、明日またやろう?」

「うん……仕方ないね……。」

また……シユンとしてる……。

そんなレイはいやだな……。

俺はレイの頭をくしゃくしゃと撫でた。

「うわ!?何するの遊夜兄!」

「これからは何時でも相手してやるからそんな顔するなよ……な?」

「うん!うんうん!」

こうして、この一日は終わった。

〳次の日〵

「遊夜兄、きたよ!!」

早朝8時、宣言どおりにm y従兄妹はやってきた。

ちなみに今日は平日だが、今日明日明後日明々後日は休みなのである。

昨日は日曜日、このあと3日ほどゴールデンウィークが残っている。そして、ゴールデンウィーク明けは……なんと俺の通う学校の創立記念日なのだ!

ふははははは!休みとはこれほどよいものだったのか!!

「遊夜兄？はやくデュエルしようよ」

「ああ、うん。わかった。わかったから揺らさないでくれ!？」

もう正直言って酔いそうです……。

「う、ごめんなさい」

「いいよ……それよりもデュエルだね？いいよ、やろうか」

こうして俺とレイはデュエルしたわけだが、俺が勝ち、レイがもう一回もう一回！と言っので、結局一日中やっていた。

……正直言って疲れた……。

第二話／試験当日・・・やっぱり飛びすぎ？（前書き）

連続投稿の2日目。

今回はデュエルあります（当然か）。

では、本編どうぞ！

第二話／試験当日・・・やっぱり飛びすぎ？

またあれから5年が経った。

早い？そんなのご都合主義だ。なんとかなる。

ちなみに今日は受験日なんだが・・・。

「簡単すぎる・・・。」

テストを開始20分ほどで終わらせてしまった。

二次創作でブルーアイズ関連が多いのはテンプレだったが、まじであるとは思わなかった。

一問目、通常モンスターで一番攻撃力の高いモンスターは？

二問目、青眼の白龍の攻撃力・守備力を答えよ。

三問目、青眼の白龍の・・・etc.etc.・・・。

正直言って脱帽しました。

でも30問中の後半十問は普通でしたよ？

二十一問目、融合カードの特徴を答えよ。

二十二問目、巻き戻しについて答えよ・・・なんかがいい例だ。

暇すぎてたまらん。

正直言ってやることがないんだが・・・。
寝るか・・・。

1時間後

「うん、よく寝……た？」

気が付いたら皆帰ってしまっていた。

こんなところに一人でいるのって悲しいんだぞチクショウ！

「帰るか・・・」

とりあえず、今日は帰って英気を養うとしよう……。

1週間後

ふ・・・フハハハハハハハハ！ やつとこの日が来たか！！
キャラが違う？

この日のデュエルが楽しみなんだよ！

「さてと、着替えて時間……は……?」

$$830.\dot{0}$$

「ち、遅刻だぁ ああああああああああ
あああ！！」

俺の行動は早かった。

すぐさまデツキを持って家を出て、海馬ドームへと向かった。

「もうとっくに俺の番終わってない!？」

ちなみに俺は二番である。

（10分後）

「や、やつとついたぜ……。受験番号2番、結城遊夜、ただいま到着しました」

「うん？確認した。中に入れ」

中に入ると、丁度十代のデュエルが終わったところだった。

「ガツチャッ！楽しいデュエルだったぜ、先生！！」

「そんな、ワタシがこんなドロップアウトボーイに負けるナンデー」

クロノスが、すごく落ち込んでいる。まあ、バカにしていた奴に負けるのはくやしけどあんなにかと、考えていると。

「そのドロップアウトボーイも受験生ナノーネ？」

「はい。受験番号2番、結城遊夜です」

「なら、君の相手も私がするノーネ（受験番号2番なら倒せば汚名返上ナノーネ）」

クロノスはたぶんこれで汚名返上ナノーネとか思ってるだろうけど、まあいい。

デッキは……。あつた……。ってこれかよ！？

下手なのでしたら危ないけど……。まあ、なんとかなるだろ。

「準備はいいノーネ？」

「はい」

デッキをディスクに入れて構える。

「^{デュエル}決闘（ナノーネ）！！」

クロノス：4000

遊夜：4000

「先行はワタシがもらうノーネ！ワタシのターン、ドロー」

クロノスがデッキからカードを引く・・・思うんだけどあのディスクって使いずらそうじゃない？

「ワタシはカードを二枚伏せて、大嵐を発動するノーネ！」

このパターンってことはおそらくあの伏せカードは・・・。

「伏せカードは黄金の邪神像ナノーネ。よって効果により、邪神トークンを二体召喚ナノーネ」

やっぱりか。

たぶんあれを生贄にしてアニメと同じように古代の^{アンティークギョーレム}機械巨兵を出す気か？

「邪神トークン二体を生贄に、ワタシは古代の^{アンティークギョーレム}機械巨兵（攻3000 / 守3000）を召喚するノーネ」

像のようなトークンが地面の中に引きずり込まれるように消えていくと、地面から古く錆びた部品で出来た巨大な機械の人形が現れた。

やはりでてきたか……古代の機械巨兵……!!
周りは「終わった……」とか「勝てるわけない」とか言ってる
がまだまだだぜ？

「ワタシはカードを伏せてターンエンドナノーネ（伏せカードは聖
なるバリアミラーフォースナノーネ。攻撃してきたら返り討ちナノ
ーネ）」

クロノス（ターンエンド時）

LP：4000

手札：1枚

場：モンスター：古代の機械巨兵 × 1

伏せカード：1枚

「俺のターン！ドロー!!」

たぶん、いや絶対あの伏せカードは攻撃反応型だろう。
……ならば、

「俺は手札から、速攻魔法サイクロンを発動、その伏せカードを破
壊する!」

「ノー!?ワタシのミラーフォースが!?!」

やはりミラーフォースだったか……危ない危ない。

「俺は手札からフィールド魔法Sin Worldを発動する」

おそらくこのカードでわかっただろうが、今回のデッキはS i n デッキだ。

そして、今手札にあるのは………！

「っは！このターンで決めるぜ！！」

「ワタシの場には古代の機械巨兵がいるノーネ！そう簡単には行かないノーネ！」

「ところがギツチョン！俺はエクストラデッキにいるサイバー・エンド・ドラゴンを除外してS i n サイバー・エンド・ドラゴン（攻4000/守2800）を特殊召喚する！」

俺の場には奇妙な仮面をつけたサイバー・エンド・ドラゴンが現れる。

「で、ででデモ？攻撃力は高くてもライフは残るノーネ」

「残念だが残させないぜ？速攻魔法リミッター解除、発動！」

S i n サイバー・エンド・ドラゴン 攻4000 8000

念のために入れとして正解だったな。

これで削りきれる。

「な、なななななな………！！」

「これで終わりだ！S i n サイバー・エンド・ドラゴンでダイレクトアタック！エターナル・エヴォリュション・バースト！！」

クロノス LP4000 - 1000

「ペペロンチイイイイノオオオオオオオオオオオオオオ~~~~~！！！！」

「俺の・・・勝ちだ！」

ワンターンキルなんて久しぶりにやったぞ？
結構きつかったが。

ワアアアアアアアアアアアアアアアア！！

直後、歓声が起こった。

「すげえ」「あの状況で勝った！？」などいろいろな声が聞こえる。
さすがにここにいるのは恥ずかしいので退散することにした。

結果はどうなるんだろうか・・・？少し楽しみである。
俺はこれまでにないほど軽い足取りでそこを後にした。

第二話／試験当日・・・やっぱり飛びすぎ？（後書き）

今回の最強カードは『Sin サイバー・エンド・ドラゴン』。

効果モンスター

星10／闇属性／機械族／攻4000／守2800

このカードは通常召喚できない。

自分のエクストラデッキから「サイバー・エンド・ドラゴン」1体をゲームから除外した場合のみ特殊召喚できる。

「Sin」と名のついたモンスターはフィールド上に1体しか表側表示で存在できない。

このカードが表側表示で存在する限り、自分の他のモンスターは攻撃宣言できない。

フィールド魔法カードが表側表示で存在しない場合このカードを破壊する。

遊「攻撃力が4000と高く、出しやすいモンスターだ

それによつて高確率でSin スターダストと共に入れられることが多いな」

ただし、フィールド魔法がないと破壊される点に注意だな。

遊「攻撃名は『エターナル・エヴォリュション・バースト』だぜ
！」

まさかの主人公のデッキは【Sin】という……………。

遊「意外と少なかったからな、使う奴」

実は最初は別なデッキを使う予定だったのですが、使う人が多すぎたのでこっちにしてみました。

遊「最初は何の予定だったんだ？」

最初はB Fの予定だった（笑）

遊「鬼畜だなオイ！」

――――

見てくださってありがとうございました。

誤字・脱字、プレイングミスなどありましたら、教えてくださいと助かります。

遊「感想もいつだって待ってるぜ」

これからもこの作品をよろしく願います！

キャラクター設定／結城遊夜（前書き）

キャラ設定第一回目は主人公です。

遊「ふーん……」

では、どうぞ！

キャラクター設定／結城遊夜

キャラクター

・主人公

名前

（転生前）不知火 遊夜

（転生後）結城 遊夜

性別

男

身長

168 cm

体重

52 kg

年齢

17歳（転生前） 0歳（転生後） 16歳（本編開始時）

外見

茶髪に茶色の目。

イメージはハルヒの少し背の縮んだ古泉一樹。

性格

面倒なこと・理不尽なことが大嫌い。

また、弱いものいじめも嫌いで、アニメでカイザーを見てからはリ

スペクトデュエルをするようになった。
その所為で全力で戦ったことが殆どない。

使用デッキ

【Sin】・・・Sinパラドクスドラゴンなどを中心としたデッキ。

序盤は主にこれを使う。

【BF】・・・BFで構成された言わずと知れた鬼畜デッキ。
本気で戦ったときに使用される予定だった。
前世でのフェイバリットデッキ。

【???】・・・登場後に更新予定。

【???】・・・上と同じく登場後に更新。

所属

ライイエロー

第三話／到着！デュエルアカデミア！！（前書き）

今回からあとがきにて、デュエルがあった場合は今回の最強カード、なかった場合はミニドラマ（？）をやってみることにしました！

遊「ほんとに出来るのか？」

う．．．．．。

や、やってみせるさ！

と、言うわけで本編の後のミニドラマも見てくれるとうれしいです。
では、本編どうぞ。

第三話／到着！デュエルアカデミア！！

今、俺はアカデミアへ向かう船に乗っている。

着ている制服が黄色いことからわかるように、俺はラーイエローだ。まあ・・・オシリスレッドよりは巻き込まれないし普通だからいいかな・・・？

ちなみに2番だった理由は三沢と違い公式大会に出ていないからだとか・・・。

そこらへんはアニメ基準じゃないんだな。意外だった。

「おーい！！」

「ん？」

「お前、俺の後にあの先生倒した奴だろ？俺とデュエルしようぜ！！」

まさかの遊城十代とのエンカウント。

俺、そんなに目立ってたかな・・・？

「その前に、名乗れ。俺はお前の名前を知らん」

「え？ああ・・・俺は遊城十代、デュエルしようぜ！！」

「名乗られたからには名乗り返さないとな・・・俺は結城遊夜だ。

デュエルはアカデミアについてからでいいか？今はデッキの調整中だな」

「うーん・・・それなら仕方ないか・・・。じゃあ、あっち着いたらデュエルしようぜ！」

「ああ」

そういつて俺らは別れた。正直言って何もしていないのに疲れた。

やっと思つたか……。

そう思つていた俺のところにまたしても原作キャラがやってきた。

「やあ、2番君」

「君は……？」

「おっと、俺の名前は三沢大地だ。君のデュエルは実に興味深かったよ」

「それはどうも……俺は結城遊夜だ。君の事は耳に入れているよ」

「君ほどの人に覚えてもらっているなんてね……。同じ寮としてこれからよろしく頼むよ」

「俺はそれほど凄くないんだが……。これからよろしくな三沢」

「ああ。そろそろ着くからな……。じゃあ、また寮で会おう」

「ああ」

こうしてまた俺は別れた。

てか、原作キャラと会つたの多すぎじゃないか？あつても一人だろう？まあ、別にいいが。

それにしても、三沢はアニメを見てたときの印象と違うな。

なんというかまあ……。気さくな奴だった。少なくとも悪い奴じゃあない。

簡単に言つたな……。なんで空気化したのかわからない。いい奴じゃないか。

（数時間後）

今の今まで入学式を行っていた。

……。どこの世界でも、校長の話つて長いんだな……。

そうしみじみと思った。

ちなみに十代は立ったまま寝ていた。

・・・器用だな。

ともかく、今俺はイエロー寮の前にいた。

お洒落なペントハウス調のそれは、ブルーに比べれば質素だが、暮らすには十分すぎると思う。

割り当てられた部屋に行くと荷物は既に届いていた。

中は意外に広く、快適に過ごせそうだった。

ちなみに、色分けとしては、オベリスク・ブルー>ラー・イエロー
>オシリス・レッドの順で成績がいい。

さらに格差もあり、宮殿のような寮にフルコースの寮食が出るオベリスクと3人相部屋で木造モルタル2階建ての古アパートであり、食事も序盤はご飯・みそ汁にメザシという粗食では、天と地ほどの差もある。

正直言つてひどい。

つていうか、二次創作でいきなりブルーからつておかしくないか？
設定では高校からだと必ずイエローかレッドのはずなんだけど・・・
・・・？

まあ、関係ないな。

「時間になるまで寝るか・・・・・・？」

とりあえず、俺は時間まで寝ることとした。

第三話／到着！デュエルアカデミア！！（後書き）

ミニドラマ / あの後・・・。

「遊夜が寝始めてから3時間くらい後」

「おい、起きろよ。歓迎会始まるぞ」

「んゝあと12時間」

「つまり明日の朝まで起きない気が!？」

「むにゃむにゃ・・・」

「頼むから起きてくれ~~~~~!!」

・・・続く・・・？

遊「今回なんでこんなことはじめようと思ったんだ？」

・・・いやあ、面白そうだし、あとがき何も書かないと寂しいから、他の作品で見たとき書いてみようかなあって思ったからかな？

遊「つまりは他の作者さんのアイデアをいただいたと？」

YES。

遊「S i n t ウルース・ドラゴン………」

遊夜くん？そんなモンスター召喚してどうする気かな……？

遊「あいつを消し飛ばせ！」

なあにこれえ………ギャ——————

！！！！

作者は天に召されました。

遊「ふう……今回も見てくれてありがとう。」

それからs i r a s u様、感想ありがとうございます。

また次回会おうぜ！！」

感想………待つてま……す………（バタッ）

第四話／対決！VS三沢（前書き）

今回の相手は三沢です。

いったい、どんなデッキを使うのでしょうか？

本編へGO！

第四話 / 対決！VS三沢

昨日・・・結局あのあと三沢に起こしてもらい、なんとか歓迎会に間に合った。

・・・後で三沢になんかお礼しとかなきゃな・・・。

「お・・・・・・・・三沢！」

「ん・・・・・・・・？ああ、遊夜か。何のようだ？」

「いや、昨日の礼をしたくてね。探してたんだ」

「礼？」

「そう、だからデッキ見せてくれないか？」

どのデッキを使うかによつて渡すカードを変えることになるからな。

・・・いったい三沢はどんなデッキを使うのだろうか？

「え？うーん・・・・・・・・。」

なら、デュエルしないか？デュエルで見極めればいいさ」

「その方法があったか・・・・・・・・。」

いいだろう、デュエルだ」

「今から１０分後、寮近くの庭だ」

「わかった」

これから十分後、三沢とデュエルすることになった。

・・・勝てるかな？

「まあいい。ただ、戦い抜くだけだ」

ただ、それだけだ・・・・・・・・。

「10分後」

「準備は言いか遊夜！」

「問題ない、いくぞ！」

「^{デュエル}決闘！！」

三沢：4000

遊夜：4000

「今回は先行は俺がもらう！俺のターン、ドロー！！」

引いたのは・・・Sin トウルース・ドラゴン。

正直言つて今の状況じゃ特に何も出来ないようなモンスターだ。

「カードを2枚伏せて、魔法カード、テラ・フォーミングを発動する！」

手札に加えるのはSinWorld！」

これで手札は4枚。

「カードを裏守備表示で召喚してターンエンド！」

遊夜

LP：4000

手札：3枚

場：モンスター：裏守備表示 x1

伏せカード：2枚

「俺のターン！ドロー」

三沢のターンか・・・。

ちなみに俺の伏せカードは激流葬とサイクロンである。

たぶん、ほとんどのことに対応は出来る・・・はずだ。

「俺は、E・HEROエアーマン（攻1800/守300）を攻撃表示で召喚！

エアーマンには、サーチ効果がある。俺は、E・HEROフォレストマン（攻1000/守2000）を手札に加える！」

「この瞬間！リバーズカード激流葬を発動！場のモンスターをすべて破壊する！！」

大きな波により、場のカードが破壊されていく。

「そして、俺のモンスターはクリッター（攻1000/守600）！
よって効果によりSinパレルギアを手札に加える！」

準備は出来た。

ここからは俺のターンだ。

「つく、俺はカードを伏せてターンエンド」

「その瞬間に、俺は伏せカードサイクロンでその伏せカードを破壊する」

「なに！？」

「そして、俺のターンドロー」

三沢

手札：5枚

LP：4000

場：なし

引いたカードは・・・Sinスターダスト・ドラゴン。

「俺は、フィールド魔法SinWorldを発動。・・・三沢、新しいSinを見せてやるよ。」

俺は、Sinパレルギア（攻0/守0）を通常召喚！

これがこのデッキのエースだ！手札のレベル8Sinスターダスト・ドラゴンに、レベル2Sinパレルギアをチューニング！！

「チューニング？なんだそれは？」

「今から見せてやるよ・・・よく見てな！！」

場に出てきたギアのようなものは、二つの輪になり白い龍を囲んだ。

「次元の裂け目から生まれし闇、時を越えた舞台に破滅の幕を引け！シンクロ召喚！Sinパラドクス・ドラゴン（攻4000/守4000）！！」

「こ、攻撃力4000のモンスター・・・！！？」

「ああ、ぴつたりだろ？・・・バトル！！」

この一撃で終わらせる。

「Sinパラドクス・ドラゴンの攻撃、ダイレクトアタック！！」

「そんな馬鹿なああああああああああああ！！」

三沢：4000 0

「俺の、勝ちだぜ」

第四話／対決！VS三沢（後書き）

今回の最強カードは『Sin パラドクス・ドラゴン』。

《Sin パラドクス・ドラゴン》

シンクロ・効果モンスター

星10／闇属性／ドラゴン族／攻4000／守4000

「Sin パラレルギア」＋チューナー以外の「Sin」と名のついたモンスター1体

このカードがシンクロ召喚に成功した時、

自分または相手の墓地に存在するシンクロモンスター1体を選択して特殊召喚する事ができる。

「Sin パラドクス・ドラゴン」はフィールド上に1体しか表側表示で存在できない。

フィールド上に表側表示で「Sin World」が存在しない場合、このカードを破壊する。

遊「このデッキのエースカードだな。攻撃力守備力が高く、召喚も容易である点強い」

ただし、他とは違い、フィールドがSinWorld限定の点に注意だ。

――
今回はやけにあっさりと終わったね。

遊「手札がよかったからな」

ちなみに何だったの？

遊「クリッター、サイクロン、激流葬、テラフォーミング、Sin
トウルー・ドラゴン、終末の騎士だった」

それはヒドイ！！

三沢「ご愁傷様だな。」

遊「さすがに悪かったと思ってるさ……」

――

今回も見てくださってありがとうございます。

遊「語り部様、感想ありがとう」

これからがんばって更新していきたいと思います。

遊「誤字・脱字、プレイングミスがあったら教えてくれると助かる」

感想も待ってます。

遊「じゃあ、次回、また会おうぜ!!」

11月22日、Sinパラドクス・ドラゴン召喚前後のところ訂正しました。

教えてくださった、語り部様、sirassu様、ゼクスユイ様、ありがとうございます。

第五話／三沢魔改造？（前書き）

すいません。

不慮の事故により更新が一日遅れました。

遊「不慮の事故？」

うん。データがぶっ飛んじやって、執筆中の小説のデータが全部消えちゃったんだ。

遊「大変だな」

だって、このPCスペック意外と低いからね！！

遊「まあ、本編をどうぞ」

第五話／三沢魔改造？

さっきのデュエルでわかるとおり、三沢のデッキは漫画版E・HE ROみたいだ。

こちらは属性HEROが多いデッキだな。

「沼地の魔人王とかつてそのデッキに入れてるのか？」

「いや、入れてないな……………」

それよりも、さっきのシンクロ召喚とやらが気になるんだが……………」

あ……………あれか……………。

「シンクロつてのは、チューナーモンスターとチューナー以外のモンスターを墓地へ送ることで、エクストラデッキからレベルの合計が一致する「シンクロモンスター」を特殊召喚できるっていう召喚方法なんだ。

たとえば、このスターダスト・ドラゴン。こいつはレベル合計が8になるようにすれば召喚できる」

「……………な！？それなら1ターン目から強力すぎるモンスターを出せるじゃないか！！」

「そういうことだ……………」

余ってるから、沼地の魔人王と、相性のいい……………そうだな、デブリ・ドラゴンをやるよ。

シンクロは……………余ってて使わないのならなんでもいい」

正直言つて、Sinnとそのほかの2つのデッキ以外は使わないからな。

というか、使えない。

・・・待てよ？いつそのこと持つてるE・HERO全部渡しちゃうか？

たぶん、一枚だけはないだろう。

「あ、中に入ってるHEROも全部やるよ」

「いいのか？随分と太っ腹じゃないか」

「何・・・使わないからな・・・そんな箱に入れとくより、使える奴に渡したほうがカードも喜ぶってことだ」

「・・・とんだデュエリスト魂だな」

「気にするな・・・使えるのは氷結界の龍トリュシーラだけか・・・」

まあ、シンクロはそんなもんか・・・」

そういつて俺は、手元にあったトリュシーラと沼地の魔人王とデブリ・ドラゴンを3枚ずつ手渡した。

「本当にいいのか？」

「いいったら、いいの。むしろもらってくれ」

「・・・そうか？じゃあ、遠慮なくもらっておこう」

本当に、三沢はいい奴だな。

特に理由もなく信じてくれるし。

「デッキ、改造するか？」

「そうだな・・・」

とりあえずは、三沢のデッキを改造することにした。

・・・というか、三沢って意外に強いんだな。もう一回やったら3回目で負けたよ。（10回中）

第五話／三沢魔改造？（後書き）

ミニドラマ／デュエル後

「遊夜のデッキって本当にひどいよな」

「なにがだよ？」

「シンクロはいつても使えないのが多いし、融合にいたっちゃ絶対に使えないじゃないか」

「・・・気にしたら負けだろ」

「しかもさっきの手札は何だ！？あれじゃあ勝てないだろ！！」

「・・・まあ・・・不慮の事故だ・・・」

・・・続かない。

今回で三沢のデッキが異常に強くなりました。

遊「V・HEROやらM・HEROやらも渡したからな」

プラスでシンクロである。
むしろチート化したかもしれん。

遊「普通に今なら負けるだろ……大抵の奴は」

だろうなww

遊「今回も見てくれてありがとう」

なすび様、ゼクスユイ様、sirasu様、語り部様、感想ありがとうございます。

プレイングミスも訂正させていただきました。

遊「次回もまた会おうぜ。

感想なんかもドシドシ送ってくれよ！」

ではノシ

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6304y/>

遊戯王GXの世界に転生した物語（意外とそのまんまな題名）

2011年11月23日12時48分発行